

## 令和元年度 連携・協力事業の実施状況について

教員養成専門部会

## 【プロジェクト名】 教育ボランティア活動

## 1 プロジェクトの目的・概要

佐賀大学教育学部と佐賀県教育委員会は、教員養成などを柱とした連携・協力協定の一環として、平成17年度から「教育ボランティア活動」を開始し、今年度は14年目を迎えた。受け入れ経験校からは継続して希望提出があり、学生のみならず児童生徒、教職員にとっても貴重な機会となっている。本年度は、205名の学生を派遣し、教育ボランティア活動を実施した（昨年度232名）。派遣校や派遣学生、児童生徒からのアンケート結果から、本事業について高い評価を得ていることがわかった。今後についても継続していくことが有意義であると思われる。

当事業の主な目的は、以下の2点である。

- 教員志望の学生が、県内の公立小・中学校、特別支援学校において、授業の補助や放課後の学習相談、学校行事の補助、部活動の支援、休み時間の遊びの相手など、様々な教育活動の支援をする。
- 教育現場におけるボランティア活動を通して、子どもとのコミュニケーションの取り方等についての基本的事項を身に付けることで、教職への資質や意欲を高める。

## 2 令和元年度の実施状況

	小学校		中学校		特別支援学校		合 計	
	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望	派遣実績	派遣希望
学校数	34	47	17	21	4	5	55	73
派遣件数	40	53	19	23	4	8	63	84
派遣人数	133	221	64	92	8	21	205	334

## (成果)

- ・現場での経験により、多くの学生に教職への意欲の高まりが見られた。また、大学での学業に打ち込む姿勢にも変化が見られ、教職を目指す学生としての自覚も深まった。
- ・多くの受け入れ校から、学生の活躍の報告をいただいた。特に学校現場の多忙化が言われる中、様々な場面で学生たちの働きが役に立ったようだ。

(アンケートより抜粋)

**【派遣学生】**

- ・たった2日間であったが、自分の指示が通る喜びや児童から信頼を得られる嬉しさを味わうことができた。しかし、担任の先生との圧倒的な指導力の差を感じた。
- ・運動会の補佐を行って、子供たちの熱意に驚きました。そして、最近の子供はませていると思っていましたが、話しかけるとすぐに答えてくれてとても素直でした。
- ・やる気のなかった生徒から最後に勉強を教えたことを感謝され、やりがいを感じた。

**【派遣校の先生】**

- ・初日から、服装・身なりも整えられていた。また、礼儀正しく好印象であった。また、生徒に馴染もうとする姿勢がうかがえた。授業においても質問する生徒に熱心に教えてくれた。楽しそうに指導してくれた姿が印象的だった。
- ・体育大会前の準備の手伝い、練習の際の児童への支援をしてもらい学校としては、とても助かった。昼休みには積極的に子どもと関わる姿も見られ、学校行事に向かって学校全体が動いている数日間を体験できたと思う。
- ・中学生の理解力や基礎学力が、学生の教える内容についていけずに困っていた。学生に対して、教える時に使う言葉を選ばないと子どもが理解できない、習っていない内容等、子どものレベルに応じて、教えるように指導した。学生はすぐに対応してくれた。学生にとっても、いい経験になっていると思う。

**【児童生徒】**

- ・ダンスを踊っている姿がかっこよかった(あのようになりたい)。(小)
- ・いろんな人が学校に来てくれるのがとても楽しみになった。(小)
- ・自分が分からなくて困っているときに気づいてもらい、やさしく、丁寧に教えていただきました。ありがたかったです。(中)
- ・良いところを見せようと、児童らが自ら学習に取り組もうとする場面も多々見られ、学習の意欲につながった。いつもはイライラしている児童が、自由時間に一緒に過ごし話を聞いてもらうことで落ち着いた時間を過ごすことができていた。(特)

**(課題)**

- ・今年度は県内20市町のうち19市町から派遣希望があったが、12市町への派遣にとどまった。学校ごとの派遣状況は小学校で34校(47校希望)、中学校で17校(21校希望)、県立学校4校(4校希望)であり、派遣できなかった学校が17校あった。派遣できなかった学校数を減らしていく手立てが必要である。
- ・受け入れ期間、日程について、学校と学生の間で認識の違いがいくらかあったようである。学校と学生の希望調査を行う際に、その点に留意する必要がある。
- ・今年度も学生の自宅や現住所の近くの学校に行くことができるように配慮したが、来年度もさらに工夫を重ねる必要がある。

**3 今後の予定等**

- 来年度も今年度とほぼ同様のスケジュールで教育ボランティア活動を実施する予定である。
- 「教育ボランティア活動」への参加を希望する学生数の確保と、県内全域の希望する学校へ学生を派遣できる方策を更に検討していきたい。